◇指導案フォーマット①＿略案＿1年＿単元4「大地の変化」編

※このファイルはブログからダウンロードして利用することが可能

＜指導案：1年＿単元4「大地の変化」p194-＞

※印：ゴシック体部分は解説

※この指導案は、『略案』であり、「本時の展開」のみで構成されている。

※模擬ノート(白紙を1枚)配布する。　→　学生は生徒役としてノートをとる　→　回収　→　次週返却

【本時の展開】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習過程全50分 | 学習活動※板書・指示内容の具体的な流れを事務的に示しておく。指導者・生徒どちらの立場で何をするのかを明確にしておく。 | 指導上の留意点※指導のポイントや注意点は、ここにすべてまとめておく。左列の学習活動と明確に区別しておく。 |
| 導　入5分 | 1. p194・196-197・199写真や図を見ながら単元4開始を確認。
2. p198これまで小学校で学んだ用語などの確認：火山　噴火　溶岩　火山灰　…　浸食　運搬…
3. 映像提示：イエローストーンや富士山
 | 1. 単元4は3章構成であることを示す。
2. 小学校で学んだ内容を踏まえ、①火山活動②地震の仕組みと災害③地層と大地の流れがあることを紹介する。
3. 映像提示：パワポにグーグルアースをリンクしておくのみ、あくまで導入、深入りしない。

※通常は前回の授業を踏まえた導入をする場合が多い。単元開始時なので、教科書の写真等を活用すると良い。 |
| 展　開35分 | * + - 1. 発問『日本で、現在活動中の活火山は、いくつくらいあると思いますか？50より多いか少ないか、多いと思う人は…』に対して反応する。
			2. p200図1　火山の写真5枚を見て…

・名前を聞いたことがある火山・写真を見て感じたこと* + - 1. 板書：火山の姿　マグマと噴火の関係を描く
			2. 映像視聴：火山ができるメカニズム

・メモ* + - 1. 課題の確認：マグマの性質と火山の形の関係

・仮説：発問『どうして火山…』* + - 1. 演示実験の観察

図3を参照しながら観察する・実験のしくみを理解する。・出口から噴出物が流れ出る・観察記録→　固化して回覧可能となったものをさらに観察* + - 1. 板書：火山の姿に描き加える

・マグマの粘り気の違い(矢印で示す)による噴出物の流れ方を描き入れる。* + - 1. p202　火山がうみ出すものをさらに描き加える。

・火口付近の溶岩ドーム・火山灰　・火山弾 | 1. 発問：実はp210の本文に「100以上」とあるが、あえて発問する。挙手の動向を見て…～が多いみたいだね、とコメントする程度にする。

※特定の生徒に答えさせるより、多いか少ないかというように全体を引き込む方が効果的な場合もある。1. 写真を見ながら次の展開を予見させる。

・雲ではなく白煙が見られる火山の写真が2枚確認できる。1. 地下のマグマ・水分・気体・発泡・噴火・噴出物の関係がわかるように描く。

→　この授業では3段階に分けて描かせる1. 音声なし：次のコーナーでのイラストを描くためのイメージ作り

・気づいたことメモの指示1. 発問：写真のようにどうして様々な形の火山があるのか、どんな意見が出るのか問いかける

※反応が予想外でも『なるほどそう思うんだね』のように再度確認するようにする。 (追認とは異なる)1. 演示実験

・セッコウを袋から押し出す。・準備物：ブラカップ　ビニール袋　セッコウ粉　はかり　水　三脚　ボール紙　ガムテープ※必ず予備実験を実施しておく。教科書に結果が示されている演示は、実験結果を完璧に明らかにする必要はない。うまく行かない場合は映像でフォローしたり、固化したサンプルを回覧すると良い。　(メモ) セッコウ：水* 1. 粘性高白　→　100g:50g
	2. 粘性低黒　→　100g:60g
1. p201図4を参考に、溶岩の性質の違いを意識させるように描かせる。

　→色分けさせるのもよい　→山の傾斜が異なることを示す　→マグマの性質が影響しているようだ…と誘導していく。1. さらに、火山の噴出物について描き加えさせて、火山の姿を完成に導く。
 |
| まとめ10分※評価を含める場合もある | 1. 発問：『本時の学習内容のまとめて下さい。』→　指名　→　問答
2. 本時の評価をさせる
3. 追加の指示があれば従う
 | 1. 生徒との問答の中で、火山の形について最終的には確実に3点を押さえる。①溶岩と色　②粘り気の違い
	1. 噴火や噴出物
2. 課題だと感じたり、良い点と思った点を述べておく。

※良い点～反省点を挙げる習慣を。3.次回の授業の予告・誘導など |